

# NTT東日本 地域循環型ミライ研究所 取り組みのご紹介

2025/8/1  
NTT東日本 地域循環型ミライ研究所



## 01 | Purpose 存在意義

### 地域循環型社会の共創

地域に密着した現場力とテクノロジーの力で、夢や希望を感じられる持続可能な循環型地域社会を共創します。



## 02 | Vision なりたい姿

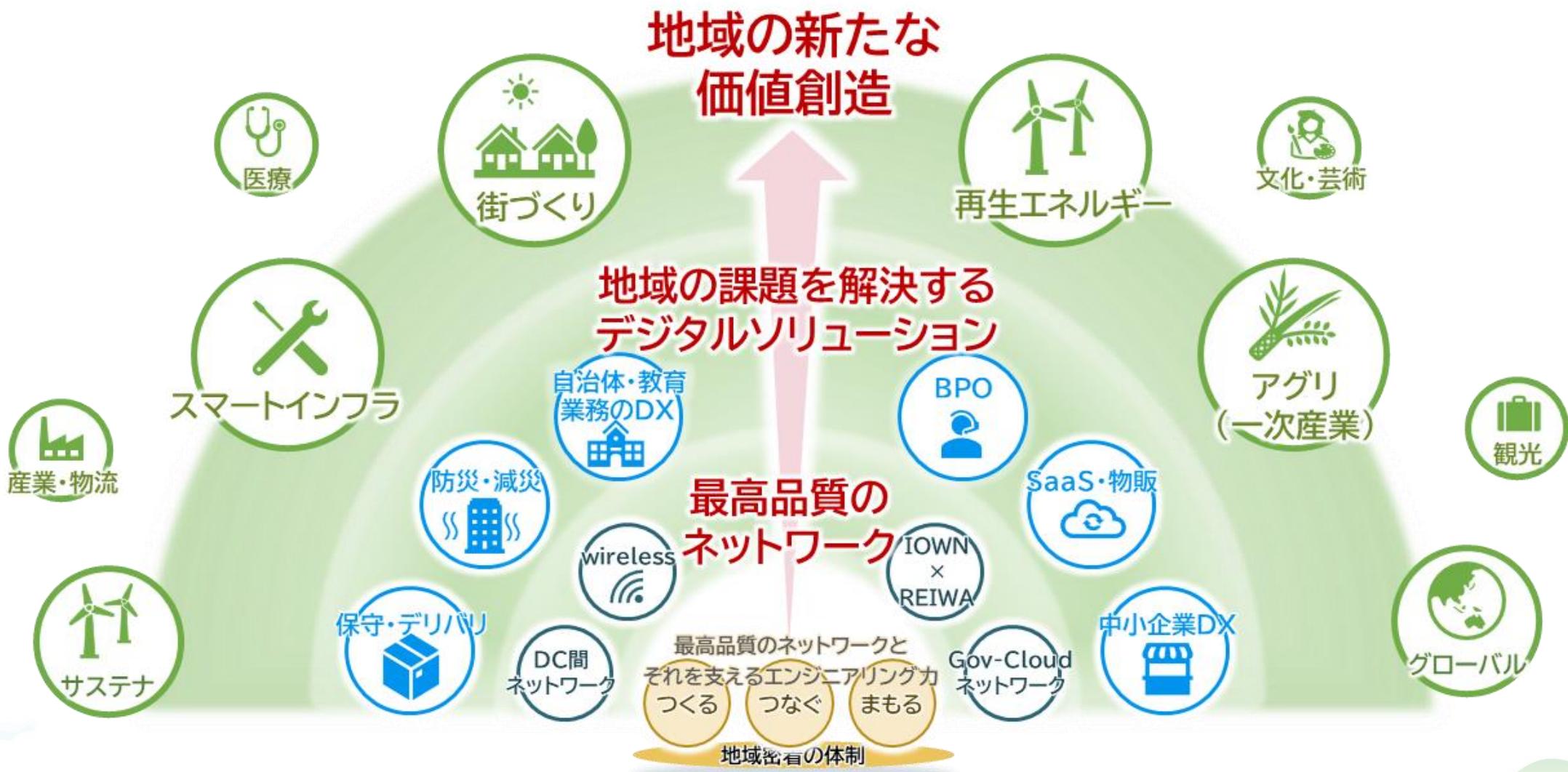
### SOCIAL INNOVATION パートナー

地域の価値創造企業として、SOCIAL INNOVATIONパートナーを目指します。



地域の価値創造企業へ  
**SOCIAL INNOVATION**  
パートナー

NTT東日本グループ



# 地域循環型ミライ研究所(ミライ研)とは



- 「地域循環型社会の共創」というNTT東日本パーカスの実現に向けて、ICTによる地域課題解決にとどまらない、新たな地域の価値創造をめざす 地域シンクタンク として設立 (2023年2月1日)
- 地域の暮らし・こころに深く根付く **社会価値** = 「文化」、「食」、「自然」の保存・活用を重点研究 領域として設定
- 地域のさまざまなステークホルダとの共創を通じて、持続可能な地域社会のモデル創出を目指す

## STEP-1

地域の文化など資産・魅力の  
調査・研究



## STEP-2

地域の人びとを繋ぐ



## STEP-3

社会/経済循環モデルの発信・提言  
**Connect**

Step-2  
創出した社会価値と  
人々を繋げる

**Social Value**  
(社会価値)

Step-4  
社会実装による  
経済価値の拡大

**Economic Value**  
(経済価値)

Step-1  
地域資源を活かした  
社会価値の創出

Step-3  
人々の繋がりが生む  
経済価値の検証

**Well-Being**  
地域に関わる人々の  
ウェルビーイング向上

↓ミライ研HP↓

地域社会への実装に向けた情報発信/提言、デジタルを活用したロングタームな支援



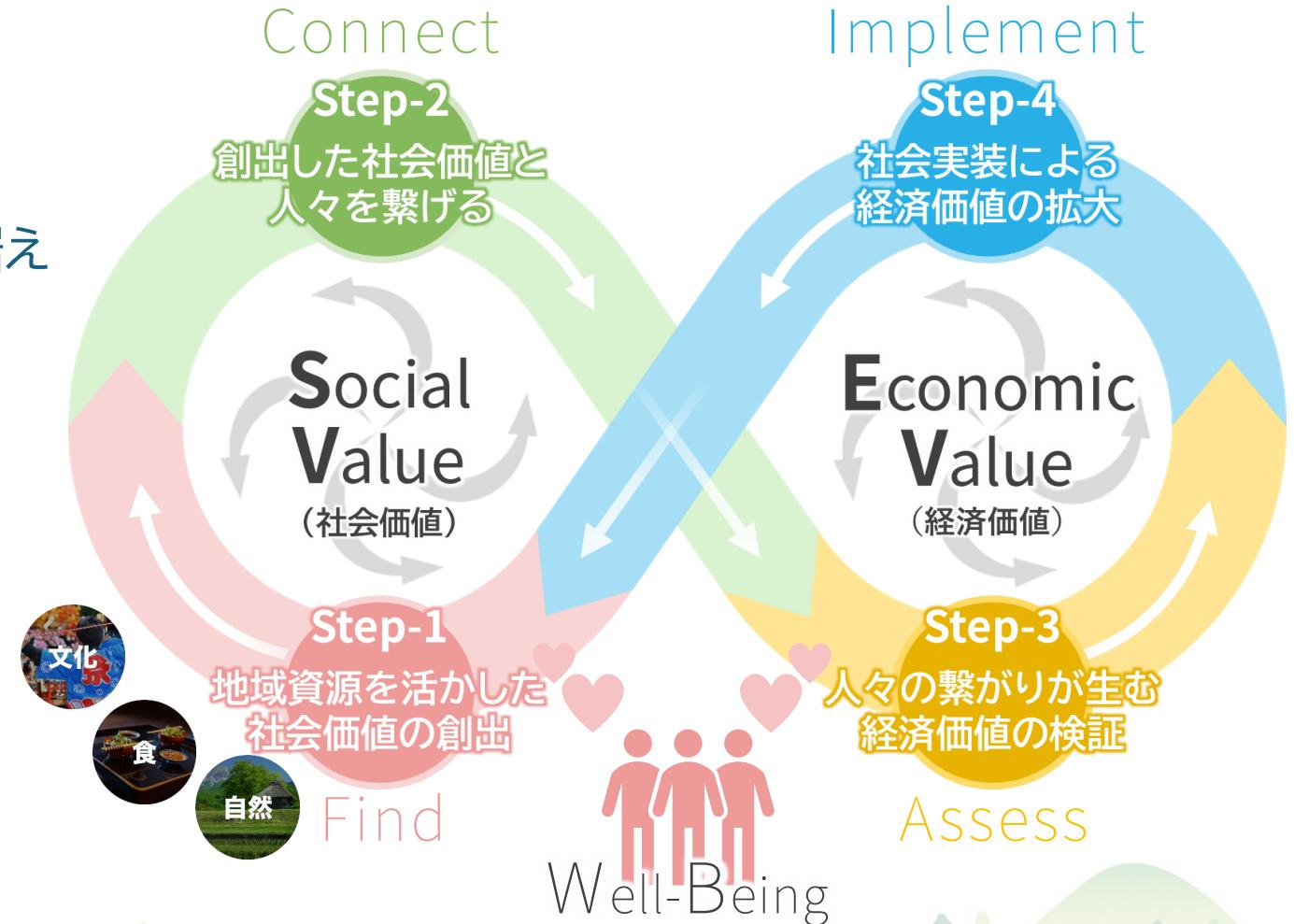
# ミライ研が追求する社会/経済の価値循環モデル=“ローカル・ループ”∞

人々のウェルビーイングを中心に据え

持続可能な地域社会を実現するために

社会価値と経済価値が循環する

社会モデル構築に向けて活動



# 2024年度の主な取組み



2024年度は以下の4つのテーマで、地域価値創造のモデル調査、研究、情報発信を実施。

## Theme-03 地域の魅力再発見 ~ローカルディグ~



新潟県 妙高市  
子育て世代のための  
移住モデル検証



新潟県 佐渡市  
音のフィールド調査×  
二拠点居住モデル構想



新潟県 小千谷市  
地域の音を活用した  
シティプロモーション実証



北海道 函館市  
「イミ消費」を取り込んだ  
地域文化継承モデル構想



秋田県 鹿角市  
祭りを起点とした  
ワデュケーション



長野県 喬木村  
「地域越境型探究学習」による  
地域愛醸成効果の実証



神奈川県 横須賀市  
教育を起点とした  
まちづくりの実証実験

## Theme-02 地域をフィールドとした 教育モデルの創出



新潟県 十日町市  
棚田を活用した企業研修実証  
による起業家マインドの醸成



地域エバンジェリスト  
「地域エバンジェリスト」支援



## Theme-01 地域資源を活用した 関係人口創出



福島県 棚倉町  
住民対話を通じた  
祭り文化の継承モデル



埼玉県 横瀬町  
新たな働き方と  
ウェルビーイング向上の取組み

## Theme-04 地域価値創造にむけた ソーシャルインノベーター育成



↓ 詳細はこちら ↓

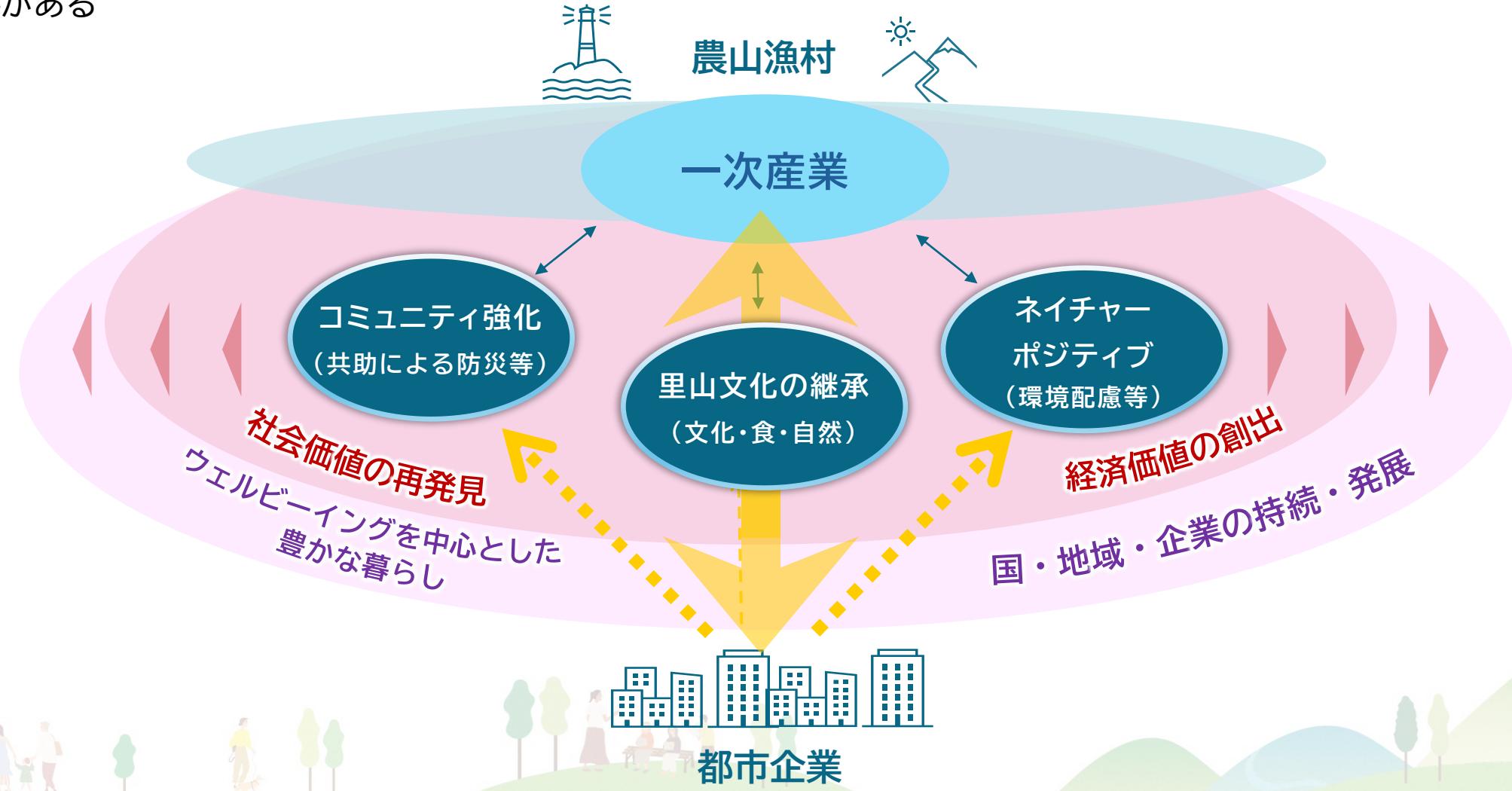
## Appendix

### 農山漁村を中心とした取り組みや共創の仕組みづくりのご紹介



# 農山漁村の多面的価値(文化、コミュニティ、自然等)

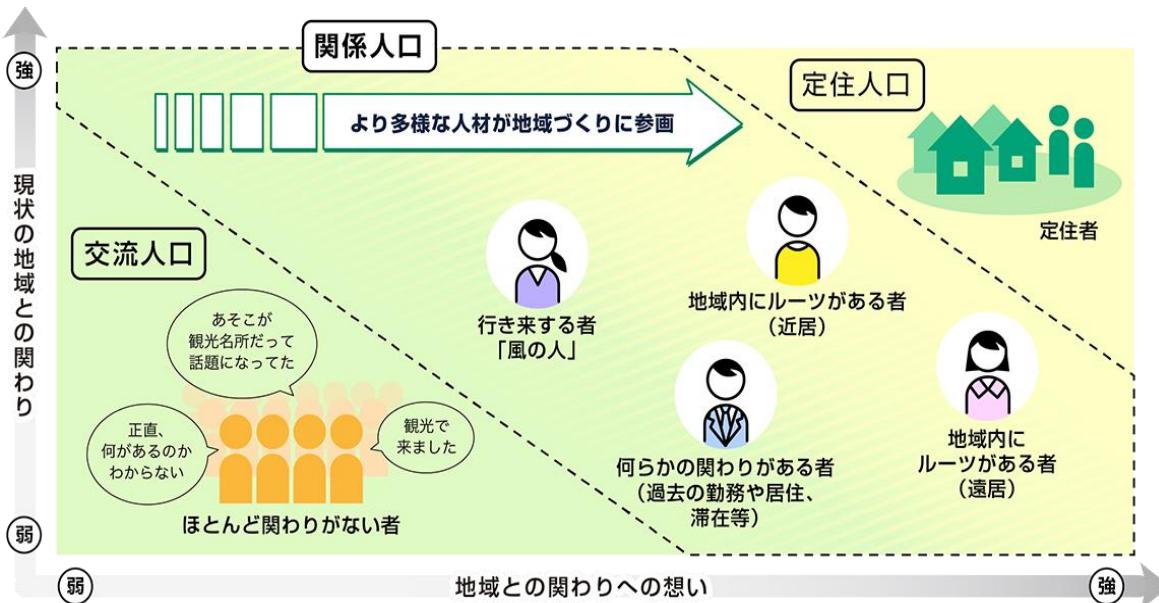
- 農山漁村は、一次産業のみならず、地域の暮らしを支える固有のコミュニティ、文化、自然といった次の世代に残すべき社会価値の源泉としても重要
- 都市企業は、事業基盤である社会全体の活性と持続に向けて、農山漁村を起点とした地域の価値創造に長期的視点で関わる必要がある



# (参考)関係人口とは

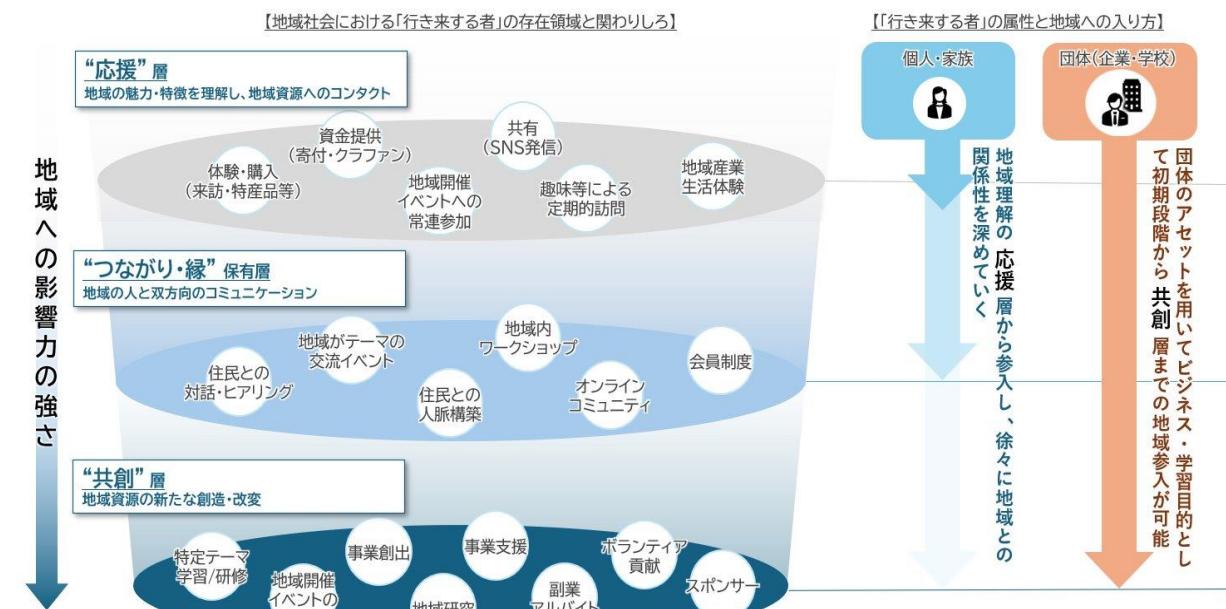
- ・ 総務省において関係人口を交流人口以上定住人口未満の「地域や地域の人々と多様に関わる人々」と定義
- ・ ミライ研では、「行き来する者」に着目し、その種別と、“関わりしろ”、それへの入り方を整理

総務省において、関係人口は「地域や地域の人々と多様に関わる人々」と定義され、関係人口を社会学の見地から定義した田中輝美氏は「特定の地域にさまざまな形で関わる人々」と言うなど、地域との関わりの捉え方は幅広い



出典:地域への新しい入り口『二地域居住・関係人口』ポータルサイト

ミライ研では、関係人口のうち、「行き来する者」に着目し、「応援層」「つながり・縁保有層」「共創層」の3種類の階層に分類のうえ、地域との多様な関わり方である“関わりしろ”、それへの入り方を整理・再定義している



出典:【実証レポート】棚田研修を起点とした関係人口創出に関する考察～新潟県十日町市における実証からの示唆～

「関係人口創出」を主要研究テーマに、二年間で関係人口創出に関する **4本の実証レポート** を発出

## 【2023年度】

- ・ワデュケーション※施策が地域や参加企業にもたらす社会的価値・経済的価値についての検証

[https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/pdf/20240124\\_05\\_02.pdf](https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/pdf/20240124_05_02.pdf)

※ワデュケーションとは、ワーケーション(Work+Vacation)、にeducation(地域のことを学ぶ教育)を組み合わせた事業のこと

## 【2024年度】

- ・“祭り”を起点とした継続的な関係人口創出に関する考察  
～秋田県鹿角市における”ワデュケーション”実証からの示唆～

[https://www.ntt-east.co.jp/regional\\_circulation/pdf/report\\_2024\\_01b.pdf](https://www.ntt-east.co.jp/regional_circulation/pdf/report_2024_01b.pdf)

- ・地域越境型探究学習を起点とした関係人口創出に関する考察  
～長野県喬木村における実証からの示唆～

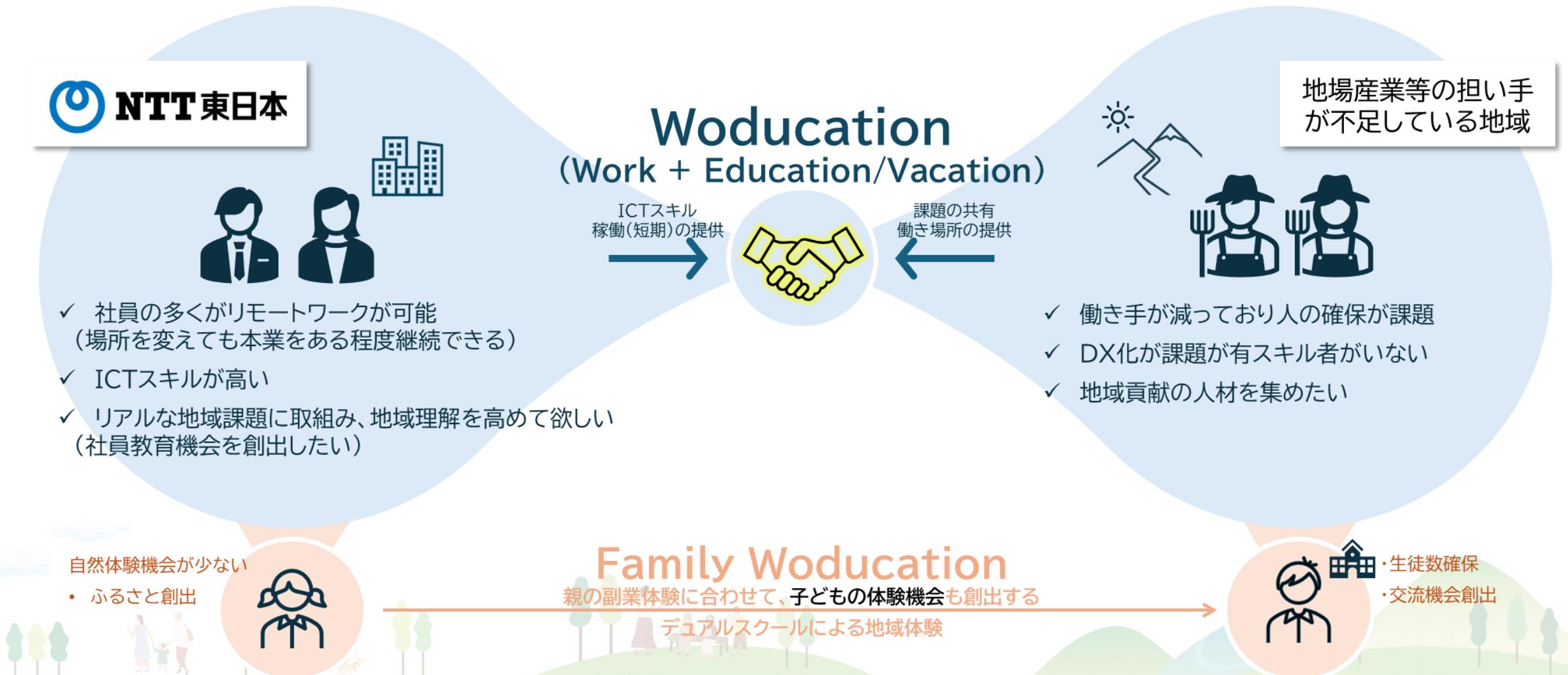
[https://www.ntt-east.co.jp/regional\\_circulation/pdf/report\\_2024\\_02a.pdf](https://www.ntt-east.co.jp/regional_circulation/pdf/report_2024_02a.pdf)

- ・棚田研修を起点とした関係人口創出に関する考察  
～新潟県十日町市における実証からの示唆～

[https://www.ntt-east.co.jp/regional\\_circulation/pdf/report\\_2024\\_03a.pdf](https://www.ntt-east.co.jp/regional_circulation/pdf/report_2024_03a.pdf)

# (参考)ワデュケーションとは

リモートワークを活用できる社員が、人口減少が進み地場産業を支える担い手が不足している地域に出向き、  
本業とは別にその地域の仕事や活動を体験することで、地域の魅力や文化に触れ、その地域への理解を深める取組み  
※外部視点を取り込み、受け入れ側も自地域の魅力の再発見につなげることを期待



## ＜プロジェクト概要＞

佐渡島において実施したワデュケーションプログラムを通じて、関係人口がもたらす社会/経済価値の検証結果や課題等をまとめ、「関係人口創出に向けたワデュケーション実証と今度の課題・提言」レポートを公表(2024年1月)

## 実証実験を新潟県佐渡市で実施 (2023年10月)

## 地場産業のしごと体験



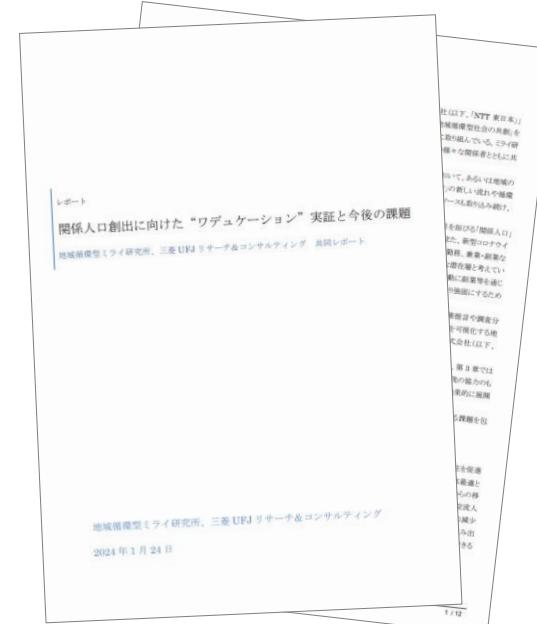
## JAと連携しておけさ柿の選果・出荷業務を体験

## 地域拠点でリモートワーク



## 廃校リノベ施設“学校蔵”で リユートワーク

(参考)関係人口創出に向けた「ワデュケーション」実証と今後の課題・提言		1/24発表(概要資料)
<b>①取組背景・目的</b>		②実証概要
各地域で移住・定住促進の取組みが進むものの、日本全体の市区町村の半数が過疎地であるという状況の中、地域間で <b>人口の獲得競争</b> につながるなど、必ずしも <b>全体最適</b> とは言えません。	実施地域 新潟県佐渡市	
他方、移住した「住民人口」や地域に来る「来住人口」ではなく、地域の人の多くが隣町へ「関係人口」が地元づくりの担い手となることが指摘されています。今後、地域の持続性を持たないもののが現れる可能性があるため、 <b>「移住人口」「来住人口」「関係人口」の3軸で、長い期間にわたって、地域の持続性を維持する</b> 「行き来する者層の3軸」に注目すべきであると考えました。	実施期間 2023年10月~11月	
そこで、リートワークを用いることの意義を踏まえ、移住・就業、就業が地元に定着し、リートワーク等を通じて活動を続けるなど、地域事業への「関係人口」を通じて地域の活動に参加すること等により地域を学び地域の関係深めを図る「ワデュケーション(※)」を実施し、関係人口創出や地域に参加することでもたらす社会的・経済的価値の向上について有効性を検証しました。	実施目的 ワデュケーション施策が地元や参加企業にたらさ社会的価値・経済的価値についての有効性検証	
※Work(仕事)+Education(他のことを学ぶ教育)+Vacation(休暇)を組み合わせた事業を指す。一般社団法人の「ワードリーム」のロゴと位置で置き付けられる「関係人口」のイメージ	参加者 NTT東日本・三井UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社(総17名)	
	実施内容 廉校を活用した酒蔵・コワーキングスペース「学校蔵」にて所蔵企業の業務をリモートワークで実施する傍ら、業務を通じて地元の活性化とともにJA羽茂の取り組みや羽茂の特産品等の販売促進において「けさけ」の販売・箱詰めの業務の実習体験や島内光景等を実施	
(注)「Work(仕事)+Education(他のことを学ぶ教育)+Vacation(休暇)」を組み合わせた事業を指す。一般社団法人の「ワードリーム」のロゴと位置で置き付けられる「関係人口」のイメージ	※本実証は新潟県佐渡市とJA羽茂の協力のもと実施しました。	
(注)新潟県「これからも輝く・交野町のまちづくり開拓会議報告書(概要)」2018/1/26 NTT東日本 Confidential	「学校蔵」でのリートワーク JA羽茂でのoke-sa林作業場	
<b>⑤サステナブルな関係人口創出に向けた提言</b>		
本実証の結果を踏まえ、以下の通り、ワデュケーション施策が関係人口創出に寄与していくために取り組むべきことを提言します。今後、さまざまな関係者と連携し、モデルの確立・普及活動を進めています。		
<b>社会的価値・経済的価値の可視化</b>	様々なステークholderの参加・協力意欲を得たための、価値を可視化するロジックの生成	
<b>参加対象と提供プログラムの拡充</b>	参加者属性の多様化に対応した多様多様なプログラムの拡充	
<b>地域との関係深化</b>	文化・食・自然・歴史から地域の魅力を見つけ、シビックプライドを理解するプロセスの組み込み	
<b>地域との繋がりの維持</b>	地域と地域外の人々の繋がりを維持するための施策実践・地域の内外の両方で活用できる仕組みの構築	
<b>デジタルを活用した 関係人口創出のモデル構築</b>	<b>“3STEP”的デジタル活用型ワデュケーション「関係人口創出モデル」</b> (1)リートワークのデジタル化を実現した活用の仕組みの構築によるボーナス的な人口を広げる (2)実務に即応してリモートワーク・ワークルームを充実する「ワードリーム」体制による、地域との関係を深化 (3)そして、都市に展った街は、「デジタル」活用によって地域との関係を維持・強化	



# 祭りを起点としたワデュケーション(秋田県 鹿角市)

## ＜プロジェクト概要＞

関係人口を一過性のものではなく維持・継続するためには、地域と深く関わるきっかけが重要という仮説のもと、ボランティア体験や祭り参加、住民協働でワークショップを行うなどさまざまな地域との“関わりしろ”を盛り込んだワデュケーションを2回開催し、参加者の意識変容等を調査しました。

社員が「花輪ばやし」の屋台を押す様子



ユネスコ無形文化遺産である「花輪ばやし」に夜通し参加し、祭りの担い手不足に対し、関係人口が打開策となりうるのかを検証しました。

住民と協働で地域を考えるワークショップ



外からの目線で地域と関わることで見えてくる“地域の魅力とミライ”について、地域住民と共に考えるワークショップを実施しました。

継続的な関係人口につながるコミュニティ



参加者は鹿角市の関係人口施策である「鹿角家」等のコミュニティに入り、イベント参加等を通じて継続的に鹿角市とつながっています。

詳細はこちら  
↓



## <プロジェクト概要>

長野県喬木村の協力のもと、ドルトン東京学園の「地域越境型探究学習プログラム」を企画・支援しました。具体的には、地域をフィールドに学生が問い合わせを設定し、情報を集め、仮説を立てる。そして、実際に現地に滞在、交流し、解決策を考える取組みです。これらを通じて、生徒と地域双方にどのような地域愛の醸成などの効果をもたらすのか、半年間の活動に伴走、調査しました。

### 阿島傘の保存・継承に向けた意見交換



作成当時日本一の大きさを誇った和傘の下で、伝統工芸品の保存・継承に取り組んでいる地域おこし協力隊の方の熱い想いを伺いました。

### 限界集落における地域住民との意見交換



令和2年の豪雨災害の被災地である大島地区は住民の8割強が高齢者。域外の学生との交流が地域にもたらす効果について調査分析しました。

### 喬木村役場とオンラインで繋いだ最終発表会



半年間の研究成果を喬木村役場に発表し、現地での経験や観察を基にした解決策が、独自の視点を持つ内容として地域から高く評価されました

詳細はこちら  
↓



# 棚田を活用した企業研修による社会起業家マインドの醸成 (新潟県十日町市)



## <プロジェクト概要>

里山の原風景である棚田の多くは存続の危機に瀕しています。棚田の保全・継承に向けた活動を行う新潟県十日町の社会起業家と連携し、星峠の棚田をフィールドとした企業研修を実施し、多様な生命や文化の源泉である棚田を題材とした研修を通じて、社会起業家マインドの醸成や「通い農※」の定着に向けたモデル研究を行いました。

※「通い農」とは、主に都市部などの地域外に住む人が耕作主体として、里山に通って田畠の保全に関わるライフスタイル

### 星峠の棚田耕作農家との対話会



農業従事者や行政関係者との対話を通じて、多様なステークホルダーの視点・課題を学び、社会課題解決に向き合う重要性を感じました。

### 中山間地域の「今」を五感で学ぶ稻刈り体験



多様な価値をもつ棚田を保全・継承していくことの意義や大変さを体感することをねらいとして、地域の方と共に稻刈り作業を行いました。

### 地域おこしロールプレイングの様子



社会課題解決を共創する実践として、「棚田の課題解決」をテーマに多様なロールを演じながら合意形成を図るワークを行いました。



詳細はこちら  
↓



# 海とミライのがっこうを起点としたまちづくり、コミュニティづくり (横須賀市走水地域)



## ＜プロジェクト概要＞

横須賀走水の社会起業家と連携し、自然資源を活かした教育/まちづくりプログラム“海とミライのがっこう”を展開し、“海とミライの学校”の持続的な活動、価値創出に向けて、社会価値を経済価値に繋げる仕組みについて研究しています。活動の一環として、新たな地域コミュニティをつくり、ウェルビーイングや地域に対する自分ごと化についても調査予定です。

## 自然体験プログラムの実施



- 親子や大人向けの漁体験・食育体験を行い、自然とのふれあいを通じたソウゾウ(想像・創造)力の醸成やウェルビーイング、地域愛の向上を目指す



## 海とミライの学校の活動発信



- 先日テレビ神奈川で放映
- 今年度は社会的価値と経済価値の循環に焦点を当て調査研究を実施予定



## リビングラボの立ち上げ



- 地域住民とともに、今年廃校となった学校の活用や地域の将来像を議論する場(リビングラボ)を立ちあげ
- リビングラボの関わりによる、ウェルビーイングや地域に対する自分ごと化の変容について調査研究予定

詳細はこちら  
↓



## ＜プロジェクト概要＞

食の分野で連携する客員研究員(東洋大学露久保准教授)と共同で、佐賀県唐津市の食文化継承を軸とした研究に取り組んでいます。地域の食文化に触れることが地域住民の地域愛着の醸成やウェルビーイングの向上に寄与するか等を調査予定です。地域における郷土料理に対する認識や、食とコミュニティの関係についての初期調査結果を日本家政学会にてポスター発表しました。

## 地域の食文化調査



- ・ 地域の誇る食文化を次世代に継承するため、現地で活動する個人・団体等へのヒアリング実施し、対象となる料理や食材を選定
- ・ 郷土料理に関するアンケートを実施し、地域の食文化継承に関する意識を調査

## 家政学会におけるポスター発表

### P-040 地域循環型社会の実現に向けた 関係人口創出の取り組み

小林華子<sup>1</sup>, 露久保美夏<sup>2</sup>, 中山雄太<sup>1</sup>, 水谷考婚<sup>1</sup> (<sup>1</sup>東日本電信電話(株), <sup>2</sup>東洋大)

(1) 食文化継承や取り組み  
・ 人口減少や高齢化の進行により、地域固有の食文化継承が困難になっている  
・ とりわけ、家庭や地域行事の喪失に伴う継承機会の減少が必要になり、郷土料理や地域に根付く食が消えゆく状況にある  
・ 食文化は、地域の歴史や風土、生活様式と密接に結びついた無形の文化財であり、継承の取組は重要な課題である

(2) 研究に取り組む理由  
・ 食文化が消えゆくことにより、地域アイデンティティやコミュニティの希薄化が危惧される  
・ これまでNTT東日本と地域循環型リサイクル研究所が実施した実証において、関係人口が地域のシンクプライド醸成や地域活性化に影響を与えることが示唆されている。食文化継承の分野においても、関係人口が関与することにより地域の人々の食文化継承に対する意識を与えることが想定できる  
・ この実験では十分な研究がなされている

目的  
・ 食文化継承に関係人口が関与することによる意義や効果、地域愛の醸成やウェルビーイングの向上要因の検証  
・ 地域に根付く食文化、郷土料理、食文化継承の課題の明確化  
方法

2024年11月～2025年4月の期間中、食文化についてアンケート調査、佐賀県唐津市・有田町で現地ヒアリングを実施  
(1)食に関する取組をしている団体・個人へのアンケート  
 ①元地域おこし協力隊 長谷川氏  
 ②有田みらい相談会(4名)  
 ③きょううきみんなの食室スタッフ(4名)  
 唐津市七つの島の歴史や暮らしをまとめて七つの島の歴史書き下しババ  
 有田の季節行事調査を実施する会を開催している団体  
 (2)郷土料理に関するアンケート 唐津市鹿木地区での口頭調査  
 調査対象：佐賀県内在住の10代～70代以上の男女121名  
 (1)年齢別回答  
 アンケート調査、聞き取り調査からは、「郷土料理」として複数人から挙げられたのは  
 「かの煮(6名)」、「筑前煮(4名)」、「アボの若煮(2名)」  
 「かの煮、筑前煮」は福岡等九州全域で見られるため、調査を実施した唐津市における特有の郷土料理としての回答は得られなかった。  
 がの煮  
 筑前煮

- ・ 地域の食文化の調査結果を元にポスター発表を実施
- ・ 取組の発信に止まらず、アカデミアや企業内研究所との新たなつながりも獲得

詳細は  
こちら  
↓



# 「地域エバンジェリスト」支援



- 地域活動に情熱を注ぐ社員を「地域エバンジェリスト」として認定(認定約300名)。
- 地域愛を起点に組織や企業の枠を越えて、ウェルビーイングを実現しながら自己成長を続ける彼らの活動を発信することで、社員の行動変容を喚起し、多様なフィールドでの活躍を促進
- 地域エバンジェリストの活動を通して、外部からは見えづらい地域の魅力や課題の発掘にアプローチ。

## 地域エバンジェリスト活動のイメージ



業務内外の活動を通じた地域のリアルな課題の把握や、地域コミュニティとの関係を深めることで地域の価値創造に貢献

## 活動紹介:高橋透さん [#農業法人運営、#ドローン]



農業法人へのドローン技術やスマート農業の導入を通じて、地域の農業を活性化させ、次世代へと繋げていく活動に取り組んでいる

## 活動紹介:三木篤さん [#地域商社設立、#漁業DXへの挑戦]



地域商社を夷隅東部漁協出資により設立し、漁業DX等の地域課題解決、地域活性化に取り組んでいる

ひとりひとりの活動を徹底取材し、社内外へ発信

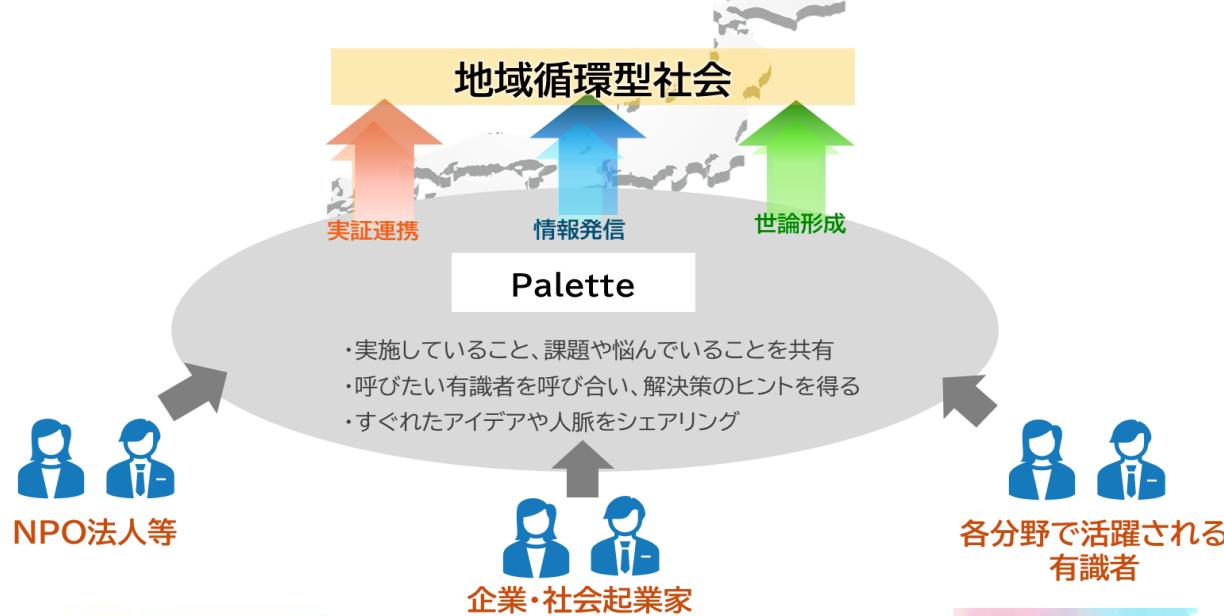
詳細はこちら↓



# ネットワーキングの場“Palette”(2025/2~)



- 地域活性化や循環社会の共創に向けて志をともにする企業や団体・個人との利害を超えたネットワーキングの場、悩みや知恵の共有の“ゼミ”として“Palette”を開始
- 将来的に地域創生に係る連携や投資等が、自発的に生まれる共創プラットフォームとなることを目指す



関係人口創出のワクワク & モヤモヤを語りつくす会  
～関係人口創出の良いアイディアは出たけど、いつ、誰がやるの？～



伊藤 将人  
(国際大学 GLOCOM 研究員)



庄司 昌彦  
(武藏大学 社会学部 教授)



水谷 考塙  
(NTT東日本 地域循環型ミライ研究所  
エンバッジリスト)



都市と地方の交流/循環は、地域と教育に何をもたらすのか?  
～地域資源を活かした固有の学びと、探究学習のミライ～



信岡 良亮  
株式会社アスノオト 代表取締役  
さとのば大学 理事長



早坂 淳  
長野大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授  
理事長

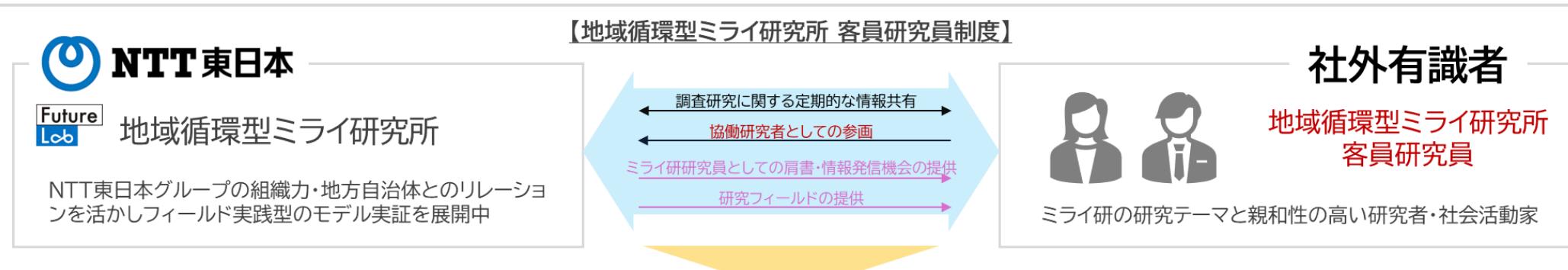


本間 愛佳  
NTT東日本 地域循環型ミライ研究所  
エンバッジリスト

# (参考) 客員研究員制度の開始



- ミライ研の共創活動の活性化およびミライ研としての研究アウトプットの質の向上・対外発信力強化を目的として、「客員研究員制度」を開始



## 協働での実証・レポート発信や政策提言を通じ、研究成果の早期社会実装を目指す

ミライ研を媒体とした地域文化領域の研究者コミュニティ(人材プラットフォーム)を構築し、  
新たな地域価値創造人材の育成にも活用する



伊藤 将人

国際大学GLOCOM  
情報社会研究グループ  
研究員/講師

地域政策学、地域社会学、地方移住、  
移住定住交流政策、モビリティ、持続可能なまちづくり、地域課題解決



逢坂 裕紀子

国際大学GLOCOM  
情報社会研究グループ  
研究員

デジタルアーカイブ、文化社会学、  
文化資源、記録管理、DX



野村 恭彦氏

Slow Innovation株式会社  
代表取締役

国際大学GLOCOM 主幹研究員



久保隅 綾氏

フリーランス  
デザイナリサーチャー



庄司昌彦 しょうじ まさひこ

主幹研究員(併任)  
修士(総合政策)

■研究分野  
情報社会学、情報通信政策、デジタルガバメント、オープンデータ、スマートシティ



露久保 美夏氏

東洋大学食環境科学部 准教授



柳沢英輔氏

日本学術振興会 特別研究員  
京都精華大学メディア表現学部非常勤講師



山本 陽平氏

株式会社あっぱれ  
代表取締役

詳細はこちら  
↓

